

第5次厚木市環境基本計画策定及び厚木市地球温暖化対策実行

計画（区域施策編）改定に係る意見交換会について

政策等の議題(テーマ) の名称及び検討事項		第5次厚木市環境基本計画策定及び厚木市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定に係る意見交換会	
開催日時		令和2年8月19日(水) 午後7時から午後8時30分まで	
開催場所		厚木市役所第二庁舎 16階 会議室 AB	
出席者数		12人	
担当課	環境政策課	結果公開日	
会議の経過		1 開会 2 部長あいさつ 3 概要説明及び意見交換 (1) 第5次厚木市環境基本計画策定について (2) 厚木市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定について 4 閉会	
	質問・意見の概要	市の考え方	
1	現在実施している第4次環境基本計画については、どのように評価して、どのように新たな計画に反映させるのか。	今のところ、各取組の達成率を見る限り順調であると評価しています。 また、昨年度市民アンケートを実施しましたので、市民の皆様が必要と考えていることを反映した計画としたいと考えています。	
2	今後の人口減少の影響は、考慮されているのか。	今後6年間の計画期間内においては、人口減少が極端に影響することはないと考えておりますが、将来の状況を見据えた上で検討する必要があると考えています。	
3	新型コロナウイルスの影響を踏まえた取組をするべきでないか。例えば、海外の輸出規制で食料自給率を上げる取組が必要になることが考えられる。	今後、どのような影響が出るか分からない現時点で、必要な取組を定めることは難しいと考えています。そのため、計画期間内でも迅速に必要な取組を実施できるような柔軟な計画としたいと思います。 なお、現在策定中の第10次総合計画の中で新型コロナの影響への対策について検討されています。	

4	<p>市内荻野で、ナラ枯れが起きている。早急に対策が必要である。</p>	<p>関係課と連携して対応を協議します。</p>
5	<p>温暖化に関する DVD や書籍は、温暖化の脅威を伝えるために有効と考える。</p>	<p>温暖化の影響を見える形で伝えることは有効と思いますので、講座やイベントでの活用を検討します。</p>
6	<p>「低炭素」という言葉が使われているが「脱炭素」という言葉を使うべきでないか。</p> <p>実際にゼロカーボンシティの宣言を行っている自治体も増えており、まずは宣言をして、具体的な取組を示していただきたい。</p>	<p>「脱炭素」という言葉に明確な定義はないと認識していますが、化石燃料を全く使わない状態と考えると、エネルギーに係る技術革新が必要と考えており、具体的な道筋を示すことができない状況です。</p> <p>そのような中で、市が「脱炭素」を掲げることは計画の取組内容とかけ離れてしまうため、現時点では「低炭素」が相応しいと考えておりますが、御意見を参考に審議会等に諮りながら検討します。</p>
7	<p>「脱炭素」に関する市の考え方は納得できない。</p> <p>明確な道筋が示せないということは一理あると思うが、まずは、2050 年に 80%温室効果ガスを削減するというスタンスを明確に持って取り組んでほしい。</p>	<p>御意見を参考に検討を進めます。</p>
8	<p>新市庁舎に関して、どのような再エネが導入されるか、省エネはどのようなものを考えているか。</p>	<p>環境基本計画が直接的に関係することではありませんが、2年前に民間企業と新市庁舎に関するエネルギーに関する検討を行いました。その中で、再エネは太陽光パネルの導入、コージェネレーションシステムの導入と熱利用、エネルギーサービスプロバイダの活用などが示されました。</p>
9	<p>新市庁舎の建設に際して、林業の再生と関連付けられないかと考えている。近隣自治体と連携して木材調達し、バイオマス発電を設置するなど考えられないか。</p>	<p>林業と公共施設の整備の関連については、現計画でも実施している、市・県産木材の利用促進を継続していきたいと考えています。</p>

10	<p>森林を守ってほしいということに関して、スイスに行ったときに、家を建てる際には地元の木を1/5以上使わなければならないという決まりがあると聞いた。</p> <p>そのように、5%でも地元の木を使うという決まりはできないか。</p>	<p>市内に家を建てる時に地元の木を使ってもらおうという御意見について、今後、取組を検討する中で参考とさせていただきます。</p>
11	<p>現計画の重点取組の取組に関して、公共施設への太陽光発電システムの整備状況、電気自動車充電器のインフラ整備の取組、河川の整備の状況について教えてほしい。</p>	<p>公共施設太陽光発電システムの設置促進については、市内を8地区に分け、避難所に設置することとしており、設置完了しています。</p> <p>電気自動車の普及促進と環境整備については、公共施設に設置している充電器の維持管理のほか、企業が充電器を設置する場合の補助などを行い、整備を進めています。</p> <p>河川整備については、担当部署で整備計画を立てて、実施をしているところです。</p>
12	<p>環境保全の取組を行いたいが、ちょっとしたことが障壁になっている場合があると感じている。</p> <p>例えば、生ゴミ処理機を導入したいが、処理の結果できる堆肥の行き場がなく導入を断念するケースなどでは、市が堆肥を活用したい人をつなげることができるのではないか。</p>	<p>御指摘のように環境保全や地球温暖化対策を実践したいが、何か困りごとがあるということは考えられるので、具体的にどのようなことが障壁になっているのかということ把握する仕組みから検討します。</p> <p>なお、堆肥の活用については、里地里山の施策などと連携できないか考えたいと思います。</p>
13	<p>再生可能エネルギーの導入促進について、現在、厚木市でどのくらいあって、今後の導入可能性はどのくらいを見込んでいるか。</p> <p>小水力発電導入の具体的なプランはあるか。</p>	<p>市内の再生可能エネルギーについては、太陽光発電についてのみ把握しており、32.7MWと推計しています。</p> <p>また、導入可能性について、推計していませんが、戸建て住宅の屋根への導入は、まだ余地があると考えています。</p> <p>なお、小水力については、市内の小水力関連企業に話を伺うなどしていますが、具体的な導入計画などはございません。</p>

14	<p>農業に係る鳥獣被害は甚大で、猿は減ったが、鹿や猪は増えている状況にある。</p> <p>森林整備を行って、里地里山と奥山の間に鳥獣をとどめることが必要。</p> <p>そのためには、林業再生が大事で公共施設でのバイオマス発電の活用は有効であると考えがどうか。</p>	<p>過去に検討したことはありますが、課題があり実現しませんでした。</p> <p>バイオマス発電は、熱供給を併用することが効率的であることから、熱を利用する施設に導入することが必要です。</p> <p>また、コスト面も含め、総合的に有効と判断できる事案がないかの検討は継続したいと考えています。</p>
15	<p>外来生物について、小田原市でジャンボタニシの農業被害があるとのこと。また、今後、気候変動による感染症を媒介する生物が流入した場合に、農薬による駆除という対処が必要になることもあると思う。生物多様性保全に関連して、農薬使用には気をつかわなければならないということが市民に伝わるように計画内に記載されることを要望する。</p>	<p>要望として受け止めます。</p> <p>なお、ジャンボタニシについては、薬剤使用による駆除でないと対応が難しいですが、ピンク色の目立つ卵なので、広範囲に散布するような使い方はされないのではないかと考えています。</p>
16	<p>地球温暖化を示す様々な指標があるが、気温上昇やCO2濃度など予想を上回る現状値となっている。</p> <p>市の人口の推移についても予測よりも悪い結果になっていると言える。</p> <p>このように、何でも予想されるより悪い結果を想定した上で対策を行うことが必要であると考える。</p> <p>特に、地球温暖化の適応策は、悪くなった結果、それに対応していくというものであることから、チャレンジングな目標を持って取り組んでいただきたい。</p>	<p>地球温暖化の適応策については、ここで初めて適応計画として位置付けるもので、これまで行っていなかった将来的な影響の予測などをこれから行っていくものです。</p> <p>そのため、将来が予測される以上に悪い影響が出ると考えて取り組むという姿勢は、次の段階に必要なになってくると思いますので、これから進める中での参考にさせていただきます。</p>

17	<p>チャレンジングな目標に関連して、「脱炭素」の定義が明確でないから使わないという説明があったが、そうであれば言葉を変えて、「2050年にCO2排出量を実質ゼロにする」という表現し、結果的に脱炭素の後追いになるようにするという必要と考える。</p>	<p>「脱炭素」については、CO2排出をゼロにすることと考えると、計画の中でそれを達成するための取組を示すことが困難であり、計画の取組内容とかけ離れてしまうことから、現時点では相応しくないという意図で御説明しました。</p> <p>しかしながら、ここで御意見をいただいたとおり、まずは目標を立ててそれを目指すという強い姿勢を示すという必要もあると思いますので、色々な方の意見を伺いながら検討していきたいと思っております。</p>
18	<p>大学その他の専門機関との連携はどのようなものがあるか。</p>	<p>大学との連携については、環境審議会の委員として参画していただいています。</p> <p>また、専門機関との連携については、特に気候変動適応については、県が設置する気候変動適応センターと連携して行うことを考えています。</p>
19	<p>温暖化の施策のそれぞれをリンクさせていくという必要性があるのではないかと。</p> <p>国の大きな課題として、遊休農地を解消していくことが大事だが、環境全体として横の連携を取り合って取り組む必要があると考える。</p>	<p>本市の取組としては、遊休農地対策としては、担い手へ農地を集積するため、利用権設定について支援を行っており、効果を上げています。</p>
20	<p>奥山、中山間地域の管理不足について、日常的に木材を利用する習慣がなくなり、管理するメリットがなくなってしまったという構造の問題に対して、行政や団体は今後どのように解決に向けて取り組んでいくべきか。</p>	<p>近年、どこの地域でも抱えている課題であると認識しています。</p> <p>環境基本計画や地球温暖化対策実行計画においても、課題であることを明確化し、関連する整備計画と連携を取って進めて行くことが大事であると考えています。</p>

21	<p>山林の根本的な問題は、木を全て杉にしてしまったことであると考えている。</p> <p>広葉樹があれば、葉が落ちて、下草を育てるなど、鳥獣がそこにとどまる環境をつくることができるが、杉だけでは何にもならない。</p> <p>そのため、杉を伐採して、広葉樹を育てることで、緩衝帯になると考える。</p>	<p>昭和 30 年代頃は、山から薪を取ってきて風呂を沸かすという生活が当たり前で、そういった山は、入会地のように地域の皆で共有するような環境でした。</p> <p>現在の山は、私有地で入りにくいものになっており、所有者だけでは管理しきれないものと思います。</p> <p>抜本的な解決は難しく、地道に取り組むしかないと考えています。</p>
22	<p>環境教育、環境学習について、子どもたちが土に触れる機会が減っている。</p> <p>危険のあることも学びながら、自然に触れ合う機会をつくることをお願いしたい。</p>	<p>体験型の環境学習講座やエコツアーなどを実施しており、今後も継続して実施していきたいと思います。</p> <p>また、学校の中でもできることはないかということも考えていきたいと思います。</p>
23	<p>山を区分して、農家の方と契約して、お米をもらう代わりに、山の中のものを自由に提供することで、山の掃除をしてもらっている人を知っている。</p> <p>昔は、そのような関係もあったようで、昔の生活の中からヒントを得ることもできるのではないかと。</p>	<p>農地は農地法によって様々な制限があるが、山林は比較的誰にでも自由に活用する余地がありそうなので、御意見を参考に研究していきたいと思います。</p>
24	<p>環境基本計画において、SDGsの8の目標との関連が示されているが、環境省では、17の目標のうち、13の目標が環境に関連するとしている。</p> <p>実際には、もっと多く関連付けられるのではないかと。</p>	<p>SDGsの目標の内容を精査し、環境基本計画との関連の見直しを行います。</p>